



腎臓内科

腎臓内科は現在医師二人で診療を行っています。腎臓は尿を作る臓器として知られていますが、他にも血圧の調整に深くかかわったり、造血ホルモンを産生したり、骨にとって重要なビタミンを活性化させたりと、様々な役割を担っています。腎臓の検査の異常が続く状態は慢性腎臓病と呼ばれ、今後起こってくる病気のリスクと考えられています。ただ一言に「腎臓の病気」と言っても、加齢や糖尿病などが関わるものが多い中、「糸球体腎炎」と呼ばれる病気、また遺伝的な病気などもあり、最初の診断は大変重要です。腎臓は加齢とともに機能が低下していく臓器なので、時間を戻して回復させていくのは通常困難です。しかし最近の薬の進歩もあり、その機能低下を遅らせていく治療も身近になってきています。

透析センター：腎機能が著しく低下してしまうと健康を保てなくなります。このような時には透析が必要になります。当院では新規に開始する血液透析を主に担当していますが、入院患者様の透析サポートも行っています。また最近、当院で腹膜透析の通院を開始された方もおられます。腹膜透析の準備はまだ自施設だけではできませんが、今後より必要になる治療と考えています。

文責／内科部長 中川 泰三



(左から) 中川部長、三井医員、吉田看護師、鈴木看護師

臨床検査科の紹介

臨床検査科は臨床検査技師14名、事務員1名で、生理・輸血・検体検査を行っています。生理検査では、心電図検査(12誘導・トレッドミル・心肺運動負荷試験など)、超音波検査(心臓・血管・腹部・体表)、呼吸機能検査、動脈硬化検査(ABI・SPP)、脳波検査、睡眠時無呼吸検査、神経伝導速度検査など様々な検査を行っています。病棟や救急での検査や血管造影室でのカテーテル検査などにも携わっており、患者さんが安心して検査を受けていただけるよう心がけています。また、今年の4月に新設された健診センターでも超音波検査を行っています。輸血検査では、患者さんに適合する血液を安全に輸血できるように検査や血液製剤の管理を行い、検体検査では、採取された血液や尿などの検体を分析して結果を報告しています。輸血検査と検体検査は輪番や緊急時にも対応できるように24時間体制をとっており、信頼できる検査データを迅速に提供できるよう日々の検査業務に取り組んでいます。

文責／臨床検査科 水野 智恵美



検査科スタッフ



検体検査(生化学)



輸血検査



心電図検査

慢性心不全看護認定看護師のご紹介

慢性心不全看護認定看護師として、心不全患者の病態を理解し症状緩和のためのマネジメントを行い、QOLを高めるための療養生活行動を支援しています。

私は2014年に心臓リハビリテーション指導士を取得し、心筋梗塞や狭心症、心不全の患者・ご家族と関わり、病気と上手く付き合いながら地域で元気に過ごして欲しいという思いから、慢性心不全看護認定看護師の資格を取得しました。今後、高齢化に伴い、ますます心不全患者が増加していくと推測されています。そこで、外来における重症化予防に

向けた療養支援の強化として、

2024年6月から『循環器・心不全看護支援外来』を開設し、心不全ステージに沿って患者さんの身体的・精神的・社会的な特性に応じて療養指導を行っています。医療、介護の複合的なニーズや、患者さんや家族の思いに寄り添いながら、患者さんが自分らしく生きることを大切にして支援しています。また循環器医師や心不全療養指導士、多職種と協働し、患者さんと顔の見える関係性を築けるよう心掛け、心臓病教室、市民公開講座なども開催しています。心臓リハビリや循環器・心不全看護支援外来への相談も随時受け付けておりますので是非ご紹介下さい。

文責／慢性心不全看護認定看護師 相山 扶美



院長コラム Vol.1

正しい目的と正しい手段

大学院での研究テーマは「心不全」だった。1990年頃、心不全は「心機能の予備力が失われ発症する」と考えられており、血管拡張薬や強心薬で予備力を増やす治療が主流だった。これらは急性心不全には今なお有効とされる。

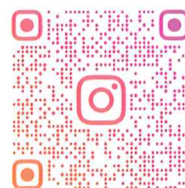
しかし慢性心不全では、従来の血管拡張薬よりもACE阻害薬が効果的であり、さらには、強心薬が病状を悪化させることも判明した。逆に、心臓の収縮力を抑える β 遮断薬が、心不全の予後を改善するという逆説的な治療法が確立され、強心薬は慢性心不全の治療から姿を消した。

このとき、ふと疑問に思ったことがある。「心移植という“究極の強心治療”は慢性心不全に有効なのに、なぜ強心薬はだめなのか?」

その答えは、「目的が正しくても、手段を誤れば害をなす可能性がある」。この一言に尽きるのではないか。心不全治療に限らず、例えば海の向こうの大統領の政策や、米騒動、医療政策など、様々な領域にあてはまるのでは?願わくば、選ばれる手段が正しいものでありますように。



院長 亀山 智樹



TOYAMA_INCHOU

Instagram
はじめました!

当院にご紹介いただく先生方へ……

医療福祉支援センターでは、ご紹介頂く患者さんの診察予約、検査予約を行っております。予約を行うことで、診療手続きが簡素化され、速やかな診察が可能となります。

診察予約の流れ

- 1 医療福祉支援センターへお電話ください。**
(直接、診察申込書をFAXしていただいても結構です。)
- 2 医療福祉支援センターで直接予約をお取りします。**
※医療福祉支援センターで判断ができない場合は担当医師に確認が必要なため、相談の上、予約させていただきます。
- 3 診察申込書をFAXください。**
確認、登録の上、予約票をFAXいたしますので、患者さんへお渡しください。

検査予約の流れ

- 1 医療福祉支援センターへお電話ください。**
- 2 医療福祉支援センターで直接予約をお取りします。**
- 3 診察申込書をFAXください。**
確認、登録の上、予約票をFAXいたしますので、患者さんへお渡しください。

検査予約時間

CT	10:00～11:30 (火・金以外)	心臓CT	月 14:00～15:00
	13:30～16:30 (月・水)		火 14:00～14:30
RI	8:30～11:30 (月～金)		水 14:00～15:00
	13:30～16:30 (月～水)		木 14:00～14:30
MRI	13:30～16:30 (月・水)		金 14:00～15:00

令和6年4月以降
CT・MRI検査予約枠
変更となりました。
ご了承ください。



富山県済生会富山病院 医療福祉支援センター

〒931-8533 富山市楠木33番地1 TEL 076-437-1101(直通) FAX 076-437-1131(直通)

ミッション(使命)

患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供

ビジョン(将来像)

- 地域住民の健康寿命の延伸
- 健康障害を抱える人々の生活の質の向上
- 働きがいのある職場環境の形成

バリュー(価値観)

- 生活困窮者支援の積極的推進、ソーシャルインクルージョン、誰一人取り残さず寄り添う心
- 地域住民、医療・看護・介護関係者に信頼され選ばれる、持続可能な病院
- 予防医学、救急・急性期医療、回復期リハビリテーション、慢性期医療、訪問看護、在宅医療支援、大規模災害時までカバーする切れ目のない医療体制の構築
- 働く職員の笑顔があふれる、働きやすい、働きがいのある病院

患者さんの権利と責務

私たちは、医療行為が患者さんと医療者との信頼関係の上に成り立つものであり、医療は患者さん中心であることを深く認識して、ここに「患者さんの権利と責務」を定めます

①患者さんの権利

- 個人としてその人格を尊重される権利
- 質の高い医療を公平に受ける権利
- 十分な情報を知り、説明を受ける権利
- 選択の自由と自己決定する権利
- プライバシーが守られる権利

②患者さんの責務

- 自身の情報を正しく提供する責務
- 診療行為に協力する責務
- 療養に専念する責務
- マナーや規則を守る責務
- 医療費を支払う責務